

クマムシの分布に影響する要因

市川中学校 3年 石井大暉

この研究の目的はコケからクマムシを採集し、クマムシの分布に影響する要因を調べることです。そのため、まずクマムシの分布と自然環境の関係性を調べました。『クマムシの分布には周りの自然環境が影響し、自然が豊かだと生息数は多く、都市化が進んでいると生息数は少なくなる』と仮説をたてました。市川市は自然の多い北部と都市部の南部にわかれるので、それぞれの地域でのクマムシの生息数を調べました。コケを採集して同定し、採集したコケ(2.0g)をベールマン装置に仕掛け、1~3日間抽出したものを実体顕微鏡で観察しました。結果、市川市北部と南部の両方のコケから同程度のクマムシが採集されたため、自然環境はクマムシの分布に影響する要因としては弱いと考えられます。またクマムシが多く採集されたコケは直立性で群落を形成するものが多いため、次に『クマムシの分布にはコケの形が影響する』と仮説をたてました。今回はコケの種類を統一し、ギンゴケをいろいろな場所で集めてそこからクマムシを採集しました。どのコケからも10匹以上のクマムシを採集することができました。よってクマムシの分布にはコケの形が影響していると考えられます。現在、採集したクマムシをプレパラート標本にし、同定作業を行っているため、今後はクマムシの種類との関係性を調べていきたいと考えています。